

【全体概要】

愛知県のじねんじょ産地では、ポリマルチ栽培を前提とした、養分吸収量にあった安価な全量基肥肥料の開発が求められており、愛知県農業総合試験場が時期別の養分吸収特性を解明し、これに合致した肥効を示す全量基肥肥料を共同開発した。この技術を標高の異なる複数のじねんじょ産地で実証し、養分吸収特性に基づく低コストかつ省力的施肥体系の確立を目指す。

新品種・新技術等の概要

「じねんじょの養分吸収に基づく低コストかつ省力的施肥技術」

開発者：愛知県農業総合試験場

開発年：2019年

特 徴

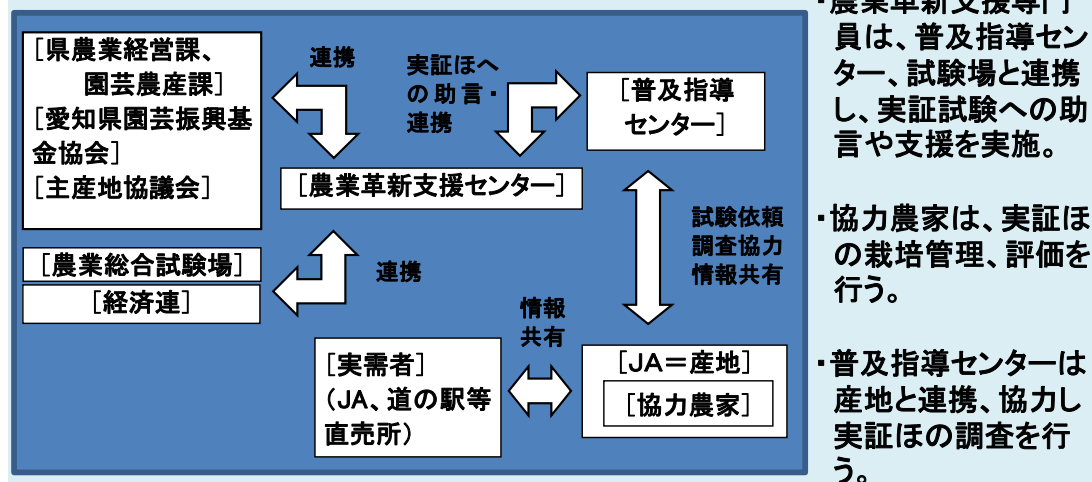
- ①ポリマルチ被覆栽培が前提。
- ②じねんじょの養分吸収特性を明らかにし、それに合致した肥効を示す全量基肥肥料を経済連と共同開発し、活用。



主な取組内容

- 標高の異なる8か所で開発された全量基肥肥料の実証ほを設置し、慣行施肥と比較してその有効性を検証した。
- 実証結果のとりまとめと成績検討会の実施
- 関係機関との意見交換会
- 産地・実需者との情報交換会
- 省力的施肥技術に関する意見交換会

実施体制図



実績と今後の展開

【取組の結果】

- 現地の慣行施肥より少ない施肥量で全量基肥実証試験を行った結果、低標高地から高標高地まで全てのほ場で、慣行施肥とほぼ同等の収量・品質を確保できた。これにより、県内のほぼ全てのじねんじょ産地において適合性を確認できた。
- 低コストかつ省力的施肥技術導入を加速化するための手引書を作成した。
- 令和2年度及び3年度の実証試験の結果から、各産地に適応した新たな省力的施肥技術マニュアルを作成した。

【今後の展開】

- 手引書及びマニュアルを活用し、県内全ジネンジョ産地(約9ha)への普及を目指す。
- 施肥に関わるコストの低減及び省力化による、経営安定、産地拡大を推進する。